

### 第1回久米南町部活動検討委員会 概要

開催日時：令和5年10月11日（水） 午後7時30分～午後9時10分

会 場：久米南町教育委員会会議室

出席者：委員12名（高岡委員、河本委員、谷川委員、重近委員、光元委員、  
近藤委員、河原委員、中村委員、中田委員、清水委員、  
日笠委員、菅原委員）

事務局4名

欠席者：なし

| 発言者        | 内 容  |
|------------|--|
|            | 委員の委嘱、教育長挨拶、委員紹介後、委員長・副委員長の選出に入り、委員長に光元委員、副委員長に菅原委員が選出され、議事に入る。                        |
|            | 議事（1）「部活動の地域連携・移行」について、事務局から資料1を用い説明。  |
| 委員長        | 説明のあったことについて、ご質問・ご意見はありますか。  |
| 委 員        | 久米南中学校において野球部で競技経験のない先生が顧問になっているとありますが、部活動の顧問はどのようにして決められていますか。                        |
| 学 校<br>関係者 | 部活動の顧問は、子どもの安全上の理由等から複数つけるようにしており、競技経験のある先生がいればそこからお願いをしています。野球部については、経験のある先生がいませんでした。 |
| 委 員        | 文部科学省の令和7年度末までに地域移行を目指すというのは、努力義務のような認識でよろしいですか。                                       |
| 事務局        | その通りです。地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指すという国の方向性です。  |
| 委 員        | この委員会は、どこまでを決めるものなのか。方向性だけなのか現場レベルの話なのか。   |
| 事務局        | 委員会については、部活動の地域移行が完了するまでやっていきたい。進捗に応じて協議したい。   |
| 委 員        | 地域クラブになった場合、中学校の大会への出場はどうなるのか。   |
| 事務局        | 大会については令和5年度からクラブチームもクラブ登録を行うことで参加可能となっています。   |
| 委 員        | 部活動とクラブチームの両方で出場できるのですか。   |
| 学 識<br>経験者 | （同一種目の場合は）どちらか片方でしか出れません。  |
| 学 校<br>関係者 | 久米南中学校では、年度末に生徒自身と保護者が相談して、来年はクラブチームで出るのか、中学校として出るのかを決めてもらい、1年間は決めた方で出てもらっています。        |

|            |   |
|------------|---|
| 学 識<br>経験者 | 岡山県では今年度クラブチーム登録が全種目で77ありました。全クラブが大会に出場したかどうかはわかりませんが、予想を超える数のクラブチームの登録がありました。  |
| 委 員        | 野球部は合同部活動とあるが、他市町村と足並みを揃えず進めて、久米南町が地域移行しても、合同部活動の相手が地域移行をしていなかったら、結局学校の先生が出てくるようになるのでは。   |
| 事務局        | 将来的には学校と部活動は完全に切り離すようになります。   |
| 学 識<br>経験者 | 補足をすると、部活動の地域移行という政策は、部活動をどういう風に改善していくかではなく、部活動の地域クラブ化です。将来的には、中学校の部活動というものがなくなって、地域のクラブでスポーツ・文化など様々な活動をやっていくということになります。久米南中学校でも単独では野球部が成立しなくなっているように、学校単位の部活動のままだと子どもたちの選択肢もなくなってしまうし、専門ではない先生が指導あたるということも起こってしまう。そこで、きちんと種目の専門家がついてコーチをして、子どもたちを育てるということを、学校を含め地域全体でやっていきたいと思いますという風に大きく子どもたちのスポーツ・文化環境の捉え方を大転換するというのが今回の話です。今後子どもの数が減っていくのはわかっているので、久米南町の中でだけ考えないでもう少し緩やかに地域を広げて考えるということが将来的には必要となるかもしれない。 |
| 委 員        | 県内の他市町村の状況はどうか。都会と田舎で違いはありますか。  |
| 学 識<br>経験者 | 自治体によって進み方は様々です。多くは国の方針のようにまずは休日から移行して、やり方が見えてきたら平日の検討をやろうという所が大半です。中には休日と一緒に平日の移行も検討した方が余計な混乱も起きないだろうということで同時並行で行っている所もある。これは人口の多い少ないではなく地域の実情に合わせてという形です。都会については、学校部活動が成立しなくて困っているという中学校がないので危機感がなく、あまり進んでいない状況です。  |
| 委 員        | 指導料をとって子ども見てくれるようなクラブがたくさんある都会と、指導はボランティアでやってますというような田舎とでは違いは現れてきていますか。   |
| 学 識<br>経験者 | 違いというか、国はスポーツ指導者にはそれ相応の謝金を払うようにすべきだと言っている。理想としてはそうならばよいが、一方で子どもたちがスポーツ・文化活動をするのに月に何万円も支出しないとそれができない社会がいい社会なのか考えた時に、ある程度は地域の中での支え合いで子どもたちを支えるということが必要かと思う。お金の面は考え  |

|           |  |
|-----------|--|
|           | <p>る必要があるが、経済的な理由で地域のクラブに参加できなくなるような子どもが生まれないようにすることが重要である。補助をするなどセーフティーネットの検討の余地も十分ある。</p>  |
| 委員        | <p>指導には指導者資格が求められますか。</p>  |
| 学識<br>経験者 | <p>国は必ず有資格でなければならないとは明言はしていない。ただ有資格者の方がいいですね。資格取得と更新に関しては、行政による補助制度が必要だと思います。</p>  |
| 委員        | <p>指導者が怪我した場合などの保険については他の地域はどうなっていますか。</p>   |
| 学識<br>経験者 | <p>謝金にしても保険にしても個人でやってくださいとなると混乱するし大変なので組織が必要だと思います。先進事例として、赤磐市の磐梨中学校の「磐梨 DreamTown プロジェクト」というのがあり、そこでは学校の校長先生と地域の方々が学校と地域の間には部活の地域移行や地域クラブを作っていくための協議会を立ち上げており、クラブが活動するための資金集め、指導者の管理、子どもの管理についてもその団体が全てやっています。理想を言えばそういう組織が久米南町にもできればいいな。その組織の立ち上げまでが検討委員会の仕事かなと思います。</p> |
| 委員        | <p>まずは休日の部活動ということですが、平日の部活動が問題として大きいと思う。休日の部活動はできるだけしないという方向ですよね。それなのに休日の活動を地域でしようというのは矛盾しているような感じがする。教員の働き方改革ということであれば平日をやっていく必要があると思います。休日だけではなく平日もやっていないと後で平日も移行すると言っても難しいんじゃないか。</p>   |
| 学識<br>経験者 | <p>土日どちらかを部活動のために出勤しないといけないというのはかなり負担だと思います。実際に土日が休みになった教員の方に話を聞くと、ようやく家族で週末泊りの旅行に行く予定が立てられるようになったっておっしゃられます。学校の先生は真面目な方が多いので我が子のことより週末の部活動の引率の方が優先度が高くなってしまいうんですよね。</p>   |
| 学校<br>関係者 | <p>久米南中学校は県の方針を踏まえて現在土曜日か日曜日のどちらか1日を部活動で活動しています。</p>   |
| 学識<br>経験者 | <p>県内外の様子を見ると、部活の顧問を絶対にやりたいという人が2割、絶対にやりたくないという人が2割、自分の学校の子どものためなら経験有無にかかわらずやりましょうかという人が6割というような感覚です。部活動の指導をやりたい先生は兼職兼業をかけてすればいいと思います。ただし部活動の持続可能性の問題の1つとして、学校の先生は異動するということがあります。どれだけ一生懸命指導をされて</p>  |

|            |  |
|------------|--|
|            | <p>いても異動があって、次に来た先生が競技経験のなければ、今まで頑張ってきた部活動の活動が停滞したりしぼんでしまうということが多々起こっています。なので兼職兼業をやっていただく上では、「他の学校に移っても久米南町の指導を続けてくれますか」と聞いておくことはすごく大事だと思います。実際、岐阜県の羽島市のケースでは、兼職兼業をかけて指導をしたいという先生には必ず「異動があっても羽島市に戻ってきますか」と確認をしています。地理的に戻ってくるのが困難な場合があることはわかった上でずっと続けてくれるか聞いているそうです。持続可能なものでなければまちづくりにならないからです。</p>   |
|            | <p>議事（２）久米南中学校の部活動の状況について、「令和５年度久米南中学校部活動所属人数」を用い、学校関係者から説明。</p>   |
| 学 校<br>関係者 | <p>所属人数については資料のとおりです。Kスポーツ部は、K（かるい）スポーツという意味からきていて、特定の競技種目はなく、その時に生徒がやりたいスポーツに取り組んでいます。大会や試合に出ることを目的としておらず、スポーツを楽しめたらいいなという感じ活動しています。資料にもある通り今年度から部活動の強制加入を廃止しましたが、ほとんどの生徒が部活動に参加しています。１年生は強制加入ではないことを知って入っているので出席率が高いですが、２・３年生は強制加入だった頃の所属のままの場合が多く、１度も練習に出てきていないという生徒が結構居ます。資料に競技経験とありますが、これは実際に先生が顧問をしている部活動の競技を経験したことがあるかということです。顧問は部活に２名ずつ居りますが、吹奏楽部は、顧問の音楽の先生が他校も受け持っているので、週２日しか勤務していません。そのため２日以外は経験のない先生が指導にあたっているので△をつけています。</p> |
| 委 員        | <p>今は部活動があるので体育館やグラウンドの地域開放はないんですね。</p>  |
| 学 校<br>関係者 | <p>そうです。</p>   |
| 学 識<br>経験者 | <p>小学校が３校とありますが、その体育館やグラウンドは平日夜とかは利用で埋まっていますか。</p>   |
| 委 員        | <p>使ってないですね。</p>   |
| 学 識<br>経験者 | <p>部活動の地域移行で施設のことがあまり問題にならないのは、部活動がなくなると中学校の体育館やグラウンドが空くので、そこで活動をすればいいよねという風になるんですね。一方で地域にもよりますが、岡山市内・倉敷市内の小学校の体育館は平日夜は満杯です。他に入る余地</p>   |

|           |   |
|-----------|---|
|           | がないくらい稼働率が高いです。久米南町では小学校が空いているのであれば、小学校の体育館やグラウンドでも活動ができますね。  |
| 委員        | 小学校も使えるんですけど、平日スポ少では運動公園の体育館やグラウンドを使っていますね。   |
| 委員        | スポ少の剣道は土曜日でも運動公園の体育館を使っていますが、そんなに予約でいっぱいという感じではないですよ。   |
| 学識<br>経験者 | 運動公園は有料ですよ。   |
| 委員        | スポーツ少年団活動の場合は無料にさせていただいています。  |
| 学識<br>経験者 | 久米南中学校のKスポーツ部ですけど、部員の中に町外のクラブチームに所属していてそちらに練習に行っているような子はいますか。   |
| 学校<br>関係者 | います。特に2・3年生は部活動が強制加入だった頃に入った子たちなので、部活には出ずにクラブチームの活動に行っています。   |
| 委員        | Kスポーツ部は元々クラブ活動を優先する子のために始めたものだと思うんですけど、今はクラブに入っていない子も部活としてKスポーツ部に入っていますよね。魅力ある部活が少ないからそこに入るとということもあるかと思うんですけど、例えば少人数のフットサルとかバトミントンとか新しく部を作るっていうのは難しいですかね。   |
| 学校<br>関係者 | 新しい部活を作るっていうのはなかなか難しいですね。   |
| 委員        | Kスポーツ部についてですが、私は部の創設の時に部活動の顧問として久米南中学校に在籍していました。作った理由としては、1つに選択肢が少ない。既存の部に入ってもなかなかやれないというような子が居て、受け皿として色んなスポーツを経験したり、基礎体力を育成するっていうような意味で作りました。そこへ在籍してクラブチームに行ってもスポーツをするのも基本的に自由でした。なので部活を作るのではないですが、Kスポーツ部の中でさっきお話のあったフットサルとかバトミントンをやってみるっていうことは可能です。 |
| 学識<br>経験者 | 久米南中学校の部活動の顧問の体制は。  |
| 学校<br>関係者 | 県費・町費の加配の先生や部活動支援員に来ていただいているので、現状全ての部活動で複数人の顧問を配置しています。   |
| 学識<br>経験者 | 部活動の顧問は1人だと、体調不良等で引率ができなくなると大会に出場できなくなったりしてしまうので、基本的に複数体制を組むことになっています。久米南中学校は、県・町の両方から加配の先生が来ていて奇跡的な状況なんですよ。その中で部活動の種目を追加で作るって  |

|     |  |
|-----|--|
|     | うのは、人手の問題で物理的にできないのが学校の難しいところですね。これも部活動の持続可能性問題の1つです。地域のクラブになれば何をするのも自由になるので、例えば夏と冬で種目を変えたりとかもできますね。   |
|     | 議事（3）について資料2を用い、事務局より説明。   |
| 委員  | 陸上クラブについて補足すると、指導はボランティアでやっています。指導者の高齢化が課題となっていたんですが、最近40代の方が入って下さって元気が出てきています。人数は36名いて、練習して色んな大会に出て活躍をしています。練習は週1回で大会前は週2回で取り組んでいます。  |
| 委員長 | 他に紹介のあった団体について補足説明はありますか。  |
| 委員  | スポーツ協会ですが、収入については補助金を除くと自動販売機の売り上げのみで、それをやりくりして運営しています。部活動の地域移行に関係してだと、利益を得ることができる団体を作る必要があると思います。土日だけなら何とかやってくれる方が居るかと思いますが、それだと持続しないのでお金が必要になってくるかと思っています。   |
| 委員  | スポーツ少年団ソフトボール・サッカー部については、所属人数が38名くらいで、11月からサッカーに切り替わります。サッカーは毎週水曜日にナイター練習を運動公園で行う予定にしています。   |
| 委員  | 剣道部は、所属は25名をなっていますが、毎回来ているわけではなく、希望者が来る形でやっています。大会前や段級審査会の前は人数が増えますが、平日は少なく、土曜日は比較的多めです。昨年からは美咲町の道場がなくなった関係で中学生2人と小学生1人が一緒に活動しています。  |
| 委員  | 吹奏楽団は文化協会ではないですが、文化協会では所属団体の高齢化が進んでおりまして、若返りという点では苦戦をしていますがなんとか続けている状況です。  |
| 委員長 | 町内のスポーツ・文化団体の状況については説明のあったとおりですが、その他ご質問はございますか。  |
| 委員  | 部活動の地域移行について、ぼんやりと分かってきたのですが、最低限これだけは整理しないとできないねっていうようなものがあると思います。例えば指導者が毎日ころころ変わっても子どもも困るでしょうし。今は難しい時代なので、しっかりとした指導を受けて、コンプライアンスの研修を受けて、不祥事を起こさないような指導者を育て上げていくことに始まって、できるだけ同じ人が同じ言葉で指導をしていくためにはどうしたらよいかという、最低これだけは決めておかないとちょっと |

|                    |   |
|--------------------|---|
|                    | <p>子どもも戸惑ってしまうなというような点を整備していただけたらなという風に思います。</p>  |
| <p>学 識<br/>経験者</p> | <p>部活動の地域移行を考えて動き出す時に必ずぶつかるのが人・金問題です。まずはどれだけ人が足りないのか、どれだけのお金をどこにかけなければいけないのかということを整理する必要があります。そのために、町内のスポーツ・文化団体に中学生が練習に参加するっていう事がどれだけできるのか、あるいはできないのかをヒアリングをかけていけたらいいかなと思います。恐らく、多くは現状の活動が中学生の参加で大きく変わる可能性があるので、今すぐには無理だという反応になると思います。ですが、何が整えば中学生が参加できるようになるのかというようなことを一緒に見つけていくっていうことが具体的な作業になっていくかなと思います。大人は子どもに対して指導的立場に常に立たなければいけないかっていうことを1回疑ってみるっていうことが大事だという風に思っています。</p> <p>部活動の地域移行で具体的なことはこれから詰めていくことになっていくかと思いますが、基本的には現状を前提条件にしない。つまり今ある形でどう地域移行するかって考えると恐らくほとんど前に進めないのので、今ある形をどう変えれば受け皿となりうるかをデザインしていく必要があります。現状を前提にしないということが非常に大切です。子どもたちのスポーツ・文化環境をどう作っていくか。これから町で生まれ育つ子どもたちのスポーツ・文化活動環境をより豊かにするためには、今がどう変わればいいのかという話をしていくということです。先程、働き盛りの保護者が部活動の面倒を見るのはなかなか難しいっていうお話がありましたがその通りだと思います。スポーツ少年団でもそうなんですけど、休日の子どもの面倒を見てくださって言って人を集めようと思っても岡山市内でもほとんど集まりません。だからスポーツ少年団の加入者が減っていくんですけど。お母さん方からしたら、自分の子どもの活動の様子見に行くならまだしも、指導者のお茶くみとかだと、そんなことをなんでしなきゃいけないのって思うのが今の親世代です。指導者にしても指導してくれてと言われても、資格も持ってないし、好きでその種目をやってはいたけど、教えるってなるとちょっとハードル高くなって思うのが普通です。指導者って名前にするとハードルが上がるんですけど、一緒にやりませんかかってなると変わってくると思います。自分がやりたいスポーツはないですか。それに中学生が混じって一緒に週何回か活動するようなクラブを作りませんかかってことになるかどうかもしれない。地域の教育力みたいなものを緩やかに自然に無理のないよ</p> |

|     |  |
|-----|--|
|     | <p>うに高めていくってということも地域移行を進めていく上で目指したいことだと思います。</p> <p>行き過ぎた指導などについては、実際すぐ手を挙げるような指導者は居ると思います。これは学校の先生より地域の指導者の方がリスクは高いです。指導できる人が1人しかいないっていう状況で、閉じた中で権力を持って指導をするようになってしまうからそうなるわけです。なので1人任せっていうよりは大人が集まってみんなで地域の中学生を育てるっていう関係ができれば、そういったリスクを下げることはできるのではないのでしょうか。そうなれば大人同士の交流もできて、支え合いみたいなものが生まれたり、あいさつする人が増えたり、そういう人間関係が地域の中により豊かに広がっていくような未来を部活動の地域移行をきっかけに作れば、地域移行をやってよかったという結果になっていくと思います。綺麗事ですけど、久米南町の暮らし方、人間関係、コミュニティみたいなものがもっとこうなったらいいねっていう姿に向かっていけるといいなと思います。</p> |
| 委員長 | <p>それでは、議題については全て終了しましたので、以上で終わりたいと思います。</p>   |